



制作物の受注にとどまらず 顧客事業の伸展までを考えるデザイン会社

株式会社バウハウス 代表取締役 森川 恒氏

多くのデザイン会社が広告代理店との取引に依存する傾向が強い中、株式会社バウハウスは顧客である企業との直接的な付き合いを優先し、信頼関係を築きあげてきた。秋田の元気を標榜し独自路線を歩む森川恒社長にお話を伺った。

創業時、コンペの仕事連続して獲得し デザイン会社としての基礎を築く

創業して今年で丸30年になります。秋田のデザイン会社としては老舗の部類に入ると思います。一つの業種で一つの企業と取引をする一業種一社の姿勢で取り組み、取引先との信頼関係は厚いのですが、それでも30年間順風満帆というわけにはいきませんでした。

一番苦しかったのは、やはりバブル崩壊後です。印刷物や広告の仕事が止まってしまいましたから。そのときは、国や県の緊急融資で救われました。それがなかったらかなり厳しい状況に陥っていたと思います。

会社の創業当時は、たとえば県の「まごころ秋田キャンペーン」や「Aターン事業」など、コンペ方式の仕事発注が多くありました。それらで運良く仕事を獲得することができ、弊社の力量を対外的にアピールできたと思います。

自分もデザイナーだが、今は調整役 仕事を任せられるスタッフが育つ

ちょうどそのころ秋田市に進出を予定していた大型小売店の目にもとまって、販売促進の仕事を中心に請け負う契約を結ぶことができました。実はいまの社屋の所在地も、そのクライアントまで歩いていける距離ということで決めました。それだけそのクライアントとの取引は会社の業績を左右するほどの大きなものでした。

私を入れて3人でスタートした会社ですが、いまは14人体制です。私自身はデザイナーですが、スタッフが増えてくるとスタッフに指示を出したり作品をチェックするなどのアートディレクターの役割が多くなりました。いまはスタッフが育ってきて私がチェックしなくてもいいくらいに仕事を任せられるようになってきました。デザイナーというのは机の上だけ

で仕事をすればいいというものではなく、自分で得意先に向いてしっかり話を聞き、自分の言葉でプレゼンテーションをして、最終的にお金をいただくところまで責任を持つ…、そこまですべて一人前だと考えています。10年くらいを目処に本人の希望があれば独立も応援しています。

デザイン会社ならではの視点を 地域経済の活性化に生かしたい

グラフィックデザインが主力の制作プロダクション集団のカタチは、今も30年前も変わりませんが、パソコンの導入にともないウェブの仕事、特にホームページ制作の仕事が多くなりました。いま、力を入れているのは秋田の農業振興の分野です。3年ほど前から秋田市特産の野菜を売り込むためのプロジェクトを進めており、いまはその延長線上で、全県の農産物を視野に入れたプランニングをしています。

キャラクターデザインや商品パッケージづくりを引き受けるだけでなく、ブランドづくり、新しい商品開発、販売ルートの開拓など、秋田の農産物を売るためのプランニングを行っていくと思っています。その一環として、弊社の社員も首都圏の商店街に向いて直接秋田の農産物をPRすることもあります。

同じように、秋田市土崎のセリオンリスタで毎週末開かれる「マルシェdeポート土崎」も、既存の産直市場とはおもむきの違う「おしゃれな進化系直売所」を目指して商品ディスプレイや

イメージ戦略を弊社でトータルにコーディネートし始めました。

物販の世界にかなり踏み込んでいる形で、従来のデザイン会社の仕事からは逸脱しているのかもしれませんが、グラフィック業務という基盤あつてのことであり、「秋田の元気にデザインで参加する」を我が社の行動目標に据えて、デザイン会社ならではの視点で秋田の生産者や事業者の経済活動に貢献していきたいと考えています。

株式会社バウハウス

〒010-0873 秋田市千秋城下町5-53
Tel.018-836-3900 Fax.018-836-3901
http://www.bau.co.jp/
設立 ■昭和57年9月1日
業務内容 ■CI・VI計画、グラフィックデザイン、
商品開発、パッケージ、Webデザイン etc.

スタッフの休憩スペースは遊び心満載だ。



- A. バウハウスの多彩な制作実績は県民なら必ずどこかで目に触れている。
- B. 倉庫の2階を改装した制作ルーム。いかにも老舗デザインプロダクション然としている。
- C. これまでにバウハウスが手がけたパッケージ作品の数々。
- D. 現在は秋田の農業振興にデザイン会社の視点で積極的に取り組んでいる。
- E. 森川社長とスタッフの船川さん。消費地でのプロモーションでは自分たちも作業服に着替えて売り子になる。泥臭さの演出も戦略のうち。
- F. 森川恒社長はみずからデザイナーだが、現在はアートディレクターを名乗る。

